

PRP(多血小板血漿)で内膜を改善

PRPとは、血小板が多量に含まれている血漿のことです。PRPは患者さん自身の血液から血小板を抽出して作製されます。

当院では2020年3月から、難治性不妊に対するPRP療法を開始しました。血小板は、出血を止める作用と、細胞の成長をうながす作用があります。一般的なPRP療法は、患者さんの血小板を集めて体の痛んだ部分に注入することで、治りにくいものや、治るまでに時間がかかる怪我や病気の治療に用いられます。

不妊治療の分野では、PRPを子宮内に注入することにより子宮内膜が活性化され、受精卵が着床しやすくなると考えられています。

PRP療法をおすすめする方

不妊治療中で凍結胚移植を予定する患者様を対象とした治療となります。

希望者はどなたでも治療可能ですが、複数回の治療不成功者や、内膜が厚くなりにくい方が主な対象者となります。

胚移植を当院で行わない方も、お受けできます。1度来院して相談をして、PRP療法当日は、月曜～金曜の9時～10時、又は午後診療のある日の14時～15時に予約して来院していただきます。

方法

移植の周期の途中で1回又は2回、血液を20ml採取し、遠心分離機で血漿部分を抽出します。ホルモン補充周期の2回目の来院日にPRPを行います。(生理の12日目頃)

調製したPRP(1ml)を、細いチューブで患者様の子宮内に注入します。

その後、移植のスケジュールに沿って、凍結融解胚移植を行います。

* 20ml採血するため、採血が困難な場合はできません。

費用

当院、又はかぬき岩端医院で治療中の方
1回8万円程です。

他院で治療中の方
1回10万円程です。

必要な検査

- ・感染症(B型肝炎、C型肝炎、HIV、梅毒) ※1年以内
- ・血液検査 ※検査希望時

